研 究 業 績

日帰り人間ドック受診者の肥満と疾患の関連について

厚生連高岡総合検診センター
米田 隆子，渋谷 直美，
棚辺 寿美枝，内田 順子

はじめに

私達が生きていく上で，食べることは必要不可欠である。

現代は「飽食の時代」だといわれ，食べ物も豊富で，人生の楽しみの一つとしても大変重要な役割を果たしている。

しかし，ストレス社会といわれる今，ストレスを解消するために食べたり，飲んだりする習慣的食行為は，過剰 cal 摂取となり，肥満につながる行為の一つとなっている。

一方，交通機関の発達，労働の機械化・電化により身体を使う事は，時代とともに少なくなってきている。

その結果，肥満者は年々増えてくる傾向にある。

近年，肥満とダイエットの関心は高まっているが，肥満と成人病の関連など，健康への影響は意外に知られていないのが現状である。

今回，当センターの受診者で，肥満と疾患の関連について，調査検討した事を報告する。

研究方法

平成３年４月１日～11月30日の期間中に日帰り人間ドックの受診者から，肥満度が20％以上の受診者と肥満度±10％正常者の検診結果を比較検討した。

肥満度は明治生命版肥満度表を使用する。

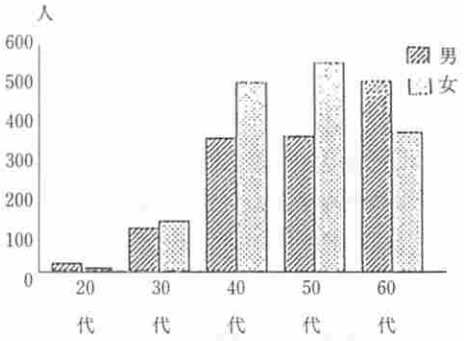
結果および考察

平成３年４月１日～11月30日までの受診者は男性1325名，女性1534名で合計2859名であり，内訳は図－１のとおりである。

受診者中，肥満度20％を越す肥満者が，195名いた。これは受診者全体の6.8％となっている。

また，男性が71名で男性受診者中5.3％女性が124名で女性受診者中8.1％と女性に多かった。

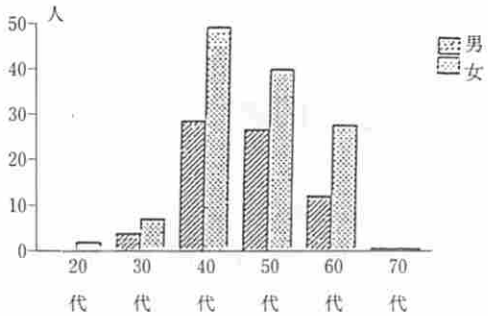
図-１　受診者年齢分布



受診者年齢分布

	男	女	合計
～ 29	22	9	31
30 ～ 39	111	128	239
40 ～ 49	346	491	837
50 ～ 59	351	543	894
60 ～	495	363	858
合計	1325	1534	2859

図-2　年代別肥満者数



	20代	30代	40代	50代	60代	70代
男	0	4	28	26	12	1
女	2	7	48	39	27	1

年代別では，図－2の示すとおり，男女とも30代では男性4名で30代男性受診者中3.6%で，また女性は7名で30代女性受診者中5.5%と少ない。

40代では，男性28名で40代男性受診者中8.1%，女性48名で，9.8%と2～3倍近くに上がっている。

50代でも男性26名50代男性受診者中7.4%女性39名7.1%になっている。

60代では，男性12名60代男性受診者中2.4%女性27名7.4%になっている。

次に肥満と疾患の関係を，調べた。

成績結果の総合判定より，臓器別に非肥満者と比べ，男女別に図－3にまとめた。

図-3　肥満者と非肥満者の疾患別比較

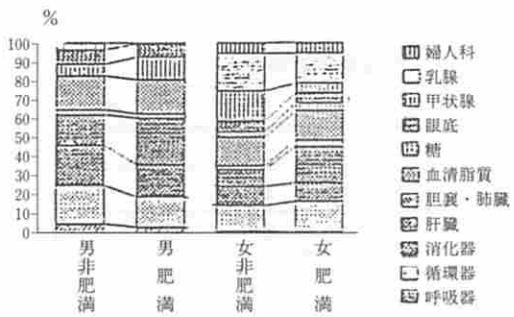


表-1　臓器別の比較

	男		女		検定
	肥満者	非肥満者	肥満者	非肥満者	
人数	71	821	124	932	
呼吸器	6	75	3	26	
循環器	31	303	54	268	男女合せて5%で有意差あり
消化器	32	322	34	201	
肝臓	47	241	65	175	有意差あり
胆嚢・肺臓	4	39	11	41	女に有意差あり
血清脂質	51	367	83	442	5%で有意差あり
血糖・尿糖	26	97	14	32	有意差あり
眼底	13	117	19	113	
甲状線	1	54	17	321	女に有意差あり
乳線			54	398	
婦人科			19	116	

(1) 男性では肝臓疾患 24.5%
　血清脂質疾患　18.2%
　糖疾患が12%と，非肥満者より多かった。

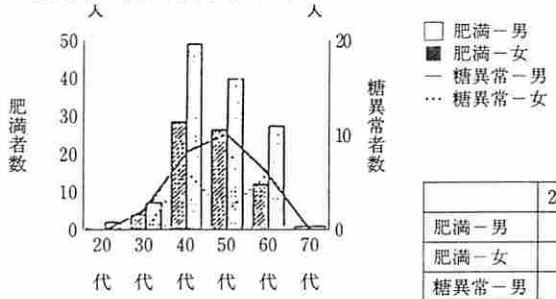
(2) 女性では循環器疾患 15.8%
　肝　臓　19%
　血清脂質　15.2%
　糖　　4.1%

の疾患が非肥満者より多く，特に糖・肝疾患において著名な差がでた。

次に，肥満と疾患の関連性について，カイ二乗検定で，表－1に表わした。

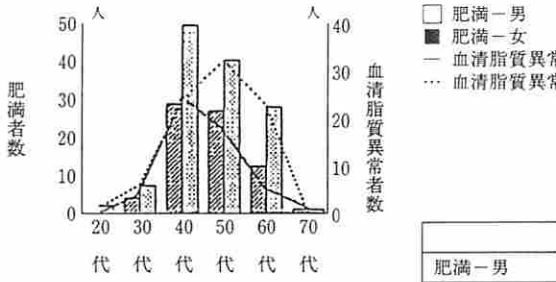
	男		女	
	非肥満	肥満	非肥満	肥満
呼吸器	75	6	26	3
循環器	303	31	268	54
消化器	322	32	201	34
肝臓	241	47	175	65
胆嚢・肺臓	39	4	41	11
血清脂質	271	35	307	52
糖	92	23	56	14
眼底	117	13	113	19
甲状線	54	1	321	17
乳線			398	54
婦人科			116	19

図-4　肥満者と糖異常者数の比較



	20代	30代	40代	50代	60代	70代
肥満－男	0	4	28	26	12	1
肥満－女	2	7	48	39	27	1
糖異常－男	0	4	24	17	5.	0
糖異常－女	1	6	23	31	22	0

図-5　肥満者と血清脂質異常者数比較



	20代	30代	40代	50代	60代	70代
肥満－男	0	4	28	26	12	1
肥満－女	2	7	48	39	27	1
血清脂質異常－男	0	2	8	10	6	1
血清脂質異常－女	0	0	6	2	6	0

(1) 呼吸器・消化器・眼底・乳腺・婦人科疾患については関連性が認められなかった。

(2) 肝・糖・甲状腺・血清脂質疾患については関連性が認められた。

関連性が認められた血清脂質および糖疾患について年代別に，さらに肥満者と比較した。

図－4は肥満者の年代分布に糖異常者を重ねると両者は男女ともほぼ比例している。

図－5は同じく肥満者の年代分布に血清脂質の異常者を重ねた。

40代から肥満者が増えているのに対し血清脂質の男性は同様に40代から比例して増えている。40代の女性では23人，50代はさらに増え31人になっている。これは，特に40代では直接，疾患に結び付かなくても，50代では蓄積異常として出ている可能性が考えられる。

この代謝異常は，成人病の死亡順位が上位である心疾患・脳血管疾患などの，動脈硬化性疾患への間接的に大きな影響を及ぼすと考えられる。

今回，データにはでなかったが肥満と合併しやすい疾患が多くある。

余分な脂肪蓄積による物理的不可でおこってくるものとして，胸部の運動制限による呼吸器病，変形関節症などの整形外科疾患ヘルニアなどの外科疾患，また婦人科疾患などが上げられる。

以上，肥満は，機能上として，生理学的にも，決して望ましい状態とは言えない。また成人病予防の上からも，安易に考えず今後も「病気」と考えて少しでも，改善できるよう援助することが必要だと考えた。